



第105期 上半期株主通信

BUSINESS REPORT

2019年4月1日～2019年9月30日

証券コード:4543



医療課題の解決に真摯に取り組み、 社会から必要とされる企業であり続ける

株主の皆様には、日頃よりテルモグループの事業活動にご理解、ご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

世界の医療を取り巻く環境は大きく変化しています。IoTやビッグデータの活用、ロボット手術システムの開発など、臨床現場にも新技術の波が押し寄せており、医療の世界でも既存の仕組みや制度が時代遅れのものになるパラダイムシフトが現実味を帯びつつあります。このような環境変化に対応すべく、テルモは研究開発への積極的な投資を継続しています。「社会的インパクトの大きな未来医療の創出」を目指した内部開発に加えて、新技術の獲得に向けた外部投資を活発化させています。例えば、2016年の買収で獲得した脳動脈瘤治

療デバイス「WEB」においては、デバイス自体のイノベーションにより塞栓治療に革新をもたらすばかりでなく、画像分析を人工知能でサポートするソフトウェアを社内で開発するなど、2019年の米国発売に伴い新たな試みにも挑戦しています。

また、先進国を中心に健康長寿社会へのシフトが急速に進んでおり、「治療中心の医療」から「予防からケアまでも含めた統合的な医療」へと、医療の構造は大きく変貌を遂げつつあります。今や心不全や糖尿病などは疾病全体を俯瞰してみる時代が到来し、診断や治療にとどまらず予防や日常管理にまで踏み込んだ包括的な対策が求められています。テルモが提供する多様な製品群を横断的に組み合わせ、画期的技術を駆使して、社会的課題に対しソリューションを提供してまいります。

テルモは現在、160以上の国や地域で事業を展開しており、ステークホルダーはグローバルに広がっています。特に発展途上国においては治療を担う医療従事者の不足などが課題になっています。そこで、より多くの国で患者さんが必要な治療を受けられるように、世界各国で医療従事者向けトレーニングを提供できる体制の構築に取り組んでいます。今後も全アソシエイトが企業理念のもと、共通の価値観と高い倫理観、使命感をもって、持続可能な医療・社会の実現と、テルモグループの持続的な成長の両立を目指します。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



代表取締役社長CEO
佐藤 慎次郎

■ 2020年3月期上半期の業績報告

売上収益 **3,073**億円 前年同期比 **+7.8%**

営業利益 **592**億円 前年同期比 **+24.3%**

カンパニー別売上収益

血液システムカンパニー

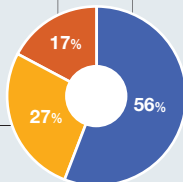
518億円
前年同期比 **+3.2%**

心臓血管カンパニー

1,726億円
前年同期比 **+12.5%**

ホスピタルカンパニー

828億円
前年同期比 **+2.0%**



地域別売上収益

アジア他 **361**億円

前年同期比 **+10.9%**

日本 **959**億円

前年同期比 **+5.3%**

中国 **244**億円

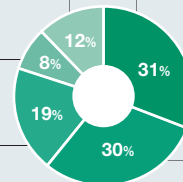
前年同期比 **+16.9%**

米州 **926**億円

前年同期比 **+9.9%**

欧州 **583**億円

前年同期比 **+3.6%**



海外合計 **2,114**億円 前年同期比 **+9.0%**

※当社グループは2018年3月期期末決算より、国際会計基準(IFRS)を適用しています。

■ 2020年3月期 通期の業績見通し

売上収益 **6,350**億円

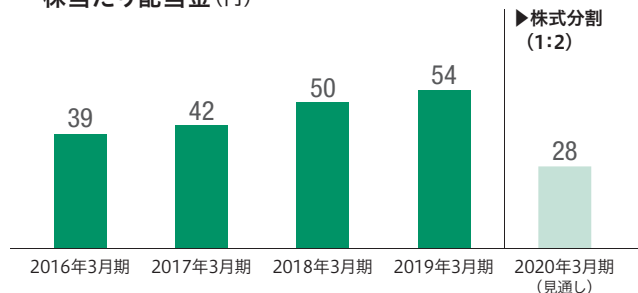
営業利益 **1,090**億円

2019年5月9日に発表した連結業績予想に変更はありません。医療機器・医薬品業界を取り巻く環境の変化や為替レートの動向など、事業環境は不透明な状況が続くことが予想されますが、当社は目標の達成に向けて、医療の質と効率の向上に貢献する高付加価値製品の開発および販売拡大、継続的な原価改善、販売費および一般管理費の効果的な運用などに注力してまいります。

■ 配当方針

当社は、高い収益性と持続的な成長を確保するため、利益の再投資を適正かつ積極的にすすめ、企業価値の一層の増大を図っていきます。株主の皆様への利益配分につきましては、安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目標にしております。当期の中間配当金は、1株につき14円といたします。また年間配当金につきましては、当中間配当金を含め、1株につき28円を予定しております。なお、当社は2019年4月1日付けで、普通株式1株を2株とする株式分割を実施いたしました。

一株当たり配当金(円)



ガーナ共和国における 輸血の安全性向上を サポートする

Ghana

テルモの血液システム事業は、より安全で高品質な輸血の提供と血液・細胞治療の発展に寄与し、医療インフラと先端医療を支えることを目指しています。当事業は、米国の子会社「テルモBCT」社が担っており、現在、世界の様々な国と地域で事業を展開しています。そうした中、同社の病原体低減化システム「ミラソル」が2年前に血液製剤の感染対策事業として独立行政法人国際協力機構（JICA）に採択され、2018年に推進プロジェクトを終えました。このプロジェクトに参加したテルモBCT社の二人のアソシエイトに、今回の背景と実施内容、今後の展望などを語ってもらいました。



テルモBCT株式会社 品質・薬事部
マネージャー

毛野 正軌 MONO Masaki



テルモBCT株式会社 マーケティング部
マーケティングスペシャリスト

松岡 千恵子 MATSUOKA Chieko

JICAプロジェクトの一環として 「輸血感染対策普及促進事業」を推進

安全な輸血のためには、献血時や血液の製剤処理などの各段階で安全性を向上させる必要がありますが、アフリカ諸国ではそれが容易ではありません。特に、ガーナ共和国では献血者のHIV罹患率が2%、マラリア罹患率が55%ともいわれており、血液製剤の安全性が懸念されています。現時点で、血液内におけるマラリアなどの病原体を検出する方法が確立されていないため、血液製剤の安全性を担保する観点から、病原体を低減し、輸血による感染リスクを低くすることが重要な医療課題となっています。

そこで、2016年にJICAが進める「発展途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業」に応募し、ガーナ共和国へ安全かつ持続可能な血液の供給体制を構築するというテルモの提案が選ばれました。

「そのプロジェクトの中心が、テルモBCT社の製品である病原体低減化システム『ミラソル』でした」と語るのは、テルモBCT社で品質・薬事部のマネージャーを担う毛野正軌です。

——毛野 実はミラソルは、血小板や血漿の成分製剤を対象に欧州ですでに導入されていましたが、採血されたままの血液、すなわちすべての成分を含んだ全血製剤を対象にした市場導入は、これが初めてだったのです。そこで、この普及促進事業のプロジェクトを開始する際に現地でミラソルを使った試験をしたところ、全血製剤の輸血でもマラリア感染を抑えることができるという結果が出ました。それが追い風となって、プロジェクトが本格化していきました。

「ミラソル」のトレーニングとともに 患者さんのもとへ安全に届ける仕組みを構築

早速、テルモBCT社は、ガーナの保健省などと協力しながら「ミラ

ソル」4台を現地の血液センターに設置するとともに、「ミラソル」をいつでも使用できるよう訓練を開始しました。数回にわたるトレーニングでは、現場の医療従事者に適切な使用方法を習得してもらい、プロジェクト終了後も継続的に使用していただけるよう「使い方を指導する」指導者の育成も実施しました。



「今回のプロジェクトで我々が掲げたもうひとつのテーマが『ヘモビリジランスの確立』でした」と語るのは、テルモBCT社マーケティング部の松岡千恵子です。ヘモビリジランスとは、献血者から採血した血液製剤が、患者さんに輸血されるまでのすべての過程において有害事象の確認や原因分析、評価をすることにより適切な対応策を示す体制のことをさします。これによって被害の拡大を防ぐことが可能です。

——松岡 ヘモビリジランスの知識・手技を習得してもらうために南アフリカ在住のコンサルタントにも協力を依頼するなど、社内外の多くの方のチームワークによって、プロジェクトは成り立ちました。

また、トレーニングの一環として、日本赤十字社の協力を得てガー

ナの血液センターのスタッフや病院の医師・看護師を日本へ招き、講習会や血液センター・病院訪問を実施。さらに、テルモの総合医療トレーニング施設「テルモメディカルプラネックス」にも案内し、アフリカの医療へのさらなる貢献について意見交換をしました。

そして、2018年12月にプロジェクトは終了し、「ミラソル」を使用した輸血実績やヘモビリジランスのデータを数多く得ています。分析の結果、「ミラソル」で処理を行った血液製剤は輸血副作用の発生率が少なく、安全な輸血に貢献することができました。

アフリカでの“安全な輸血”に向けて 今後もインフラ整備を支援

——松岡 現地の先生たちは「ミラソルをもっと広く活用したい」とおっしゃっていて、ガーナ共和国の保健省ではミラソル導入の予算化を検討しているそうです。

——毛野 世界中のアソシエイトをつなぐ共通の価値観である「コアバリューズ」の中で、“Quality（品質）”を掲げており、私たちも「安全と安心の医療を提供したい」と思っています。そうした意味でも、今回のプロジェクトは意義のあるものでした。

今回のプロジェクトを通じて得た経験やノウハウを生かし、今後も安全な輸血の普及・拡大に取り組むとともに、治療分野への展開など、より質の高い医療の提供を目指していきます。

▼病原体低減化システム「ミラソル」

輸血の安全性の向上のために「誰でも簡易に扱える仕様」を目指した製品です。採血した血液にリポフラビン（ビタミンB2）を加え紫外線照射することで、血液製剤中のHIVなどのウイルス、マラリアなどの各種病原体や白血球を不活化し、輸血時の感染・副作用リスクを低減します。リポフラビンは、天然素材であるため、処理後に血液から取り除く必要がなく、血液ロスが少ないことが特長です。



テルモメディカルプラネックスにご招待！

医療現場を再現した環境、約1世紀にわたるテルモの医療への取り組みを感じていただける製品展示室などを備えたテルモメディカルプラネックスは、医療従事者向けのトレーニングを提供するだけでなく、社内外の方とのコミュニケーションスペースとして重要な役割を担う拠点です。医療手技の疑似体験や、製品に触れていただく機会もご用意しております。また、ご好評いただいているお子様向けのキッズメディカルスクールを、今年度も開催いたします。奮ってご応募ください。



Aコース 各日60名様ご招待

プラネックス見学会 株主様ご本人

2020年2月27日(木)13:00~17:30

2020年3月13日(金)13:00~17:30

Bコース ペア30組 60名様ご招待

キッズメディカルスクール ~お子様向けプログラム~ 株主様+お子様またはお孫様(1名)

2020年3月14日(土)13:00~17:30

見学場所

テルモメディカルプラネックス
(神奈川県足柄上郡中井町)

参加費

無料
(集合場所までの往復交通費は
ご負担をお願いいたします)

集合時間・場所

13:00・小田急線秦野駅またはJR二宮駅
(送迎バス有)
※見学場所へのお車でのご来場はご遠慮ください。

- 応募方法 ----- 同封の応募ハガキにてご応募ください。
ご希望者多数の場合は抽選となります。抽選結果は、2020年2月上旬頃、郵送にてお知らせいたします。
なお、過去にご当選経験のない株主様を優先させていただきます。
- 応募締切日 ----- 2020年1月13日(月・祝)(当日消印有効)
- 参加対象 ----- Aコース: 株主様ご本人
Bコース: 株主様ご本人+お子様またはお孫様(1名)
なお、お子様またはお孫様は、小学1年生~中学3年生とさせていただきます(年齢に応じてグループ分けをいたします)。
- ご注意 ----- 見学時間は3時間程度で、徒歩、階段での昇り降りが多くございます。
- お問い合わせ先 ----- 電話:03-6742-8500[受付時間]9:00~17:45(土日祝および12月28日~1月5日の休業日を除く)

株式についてのご案内

- ◎事業年度 4月1日から3月31日まで
- ◎株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- ◎同連絡先(郵便物送付・電話照会)
〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話:0120-232-711(フリーダイヤル)
- ◎単元株式数 100株

テルモ株式会社(証券コード: 4543)
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷二丁目44番1号 電話:03-3374-8111(代表)
<https://www.terumo.co.jp/>



テルモは、第一次世界大戦の影響で輸入が途絶えた体温計を国産化するために、北里柴三郎博士をはじめとする医師らが発起人となり、1921年に設立されました。

北里柴三郎博士(資料提供:学校法人北里研究所)



TERUMOは
テルモ株式会社の商標です。
テルモはテルモ株式会社の登録商標です。
©テルモ株式会社 2019年12月